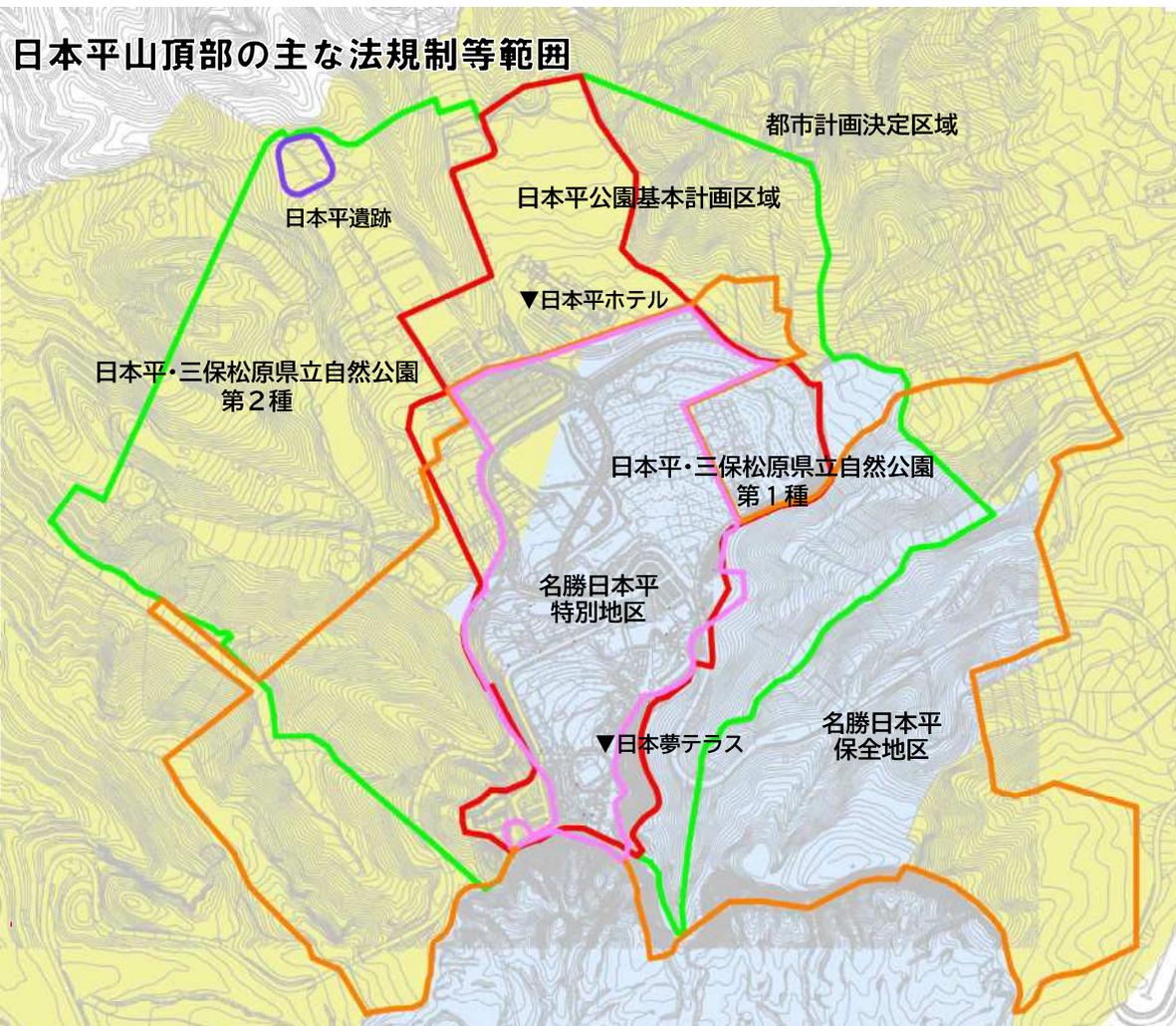


名勝日本平にかかる法規制と内容

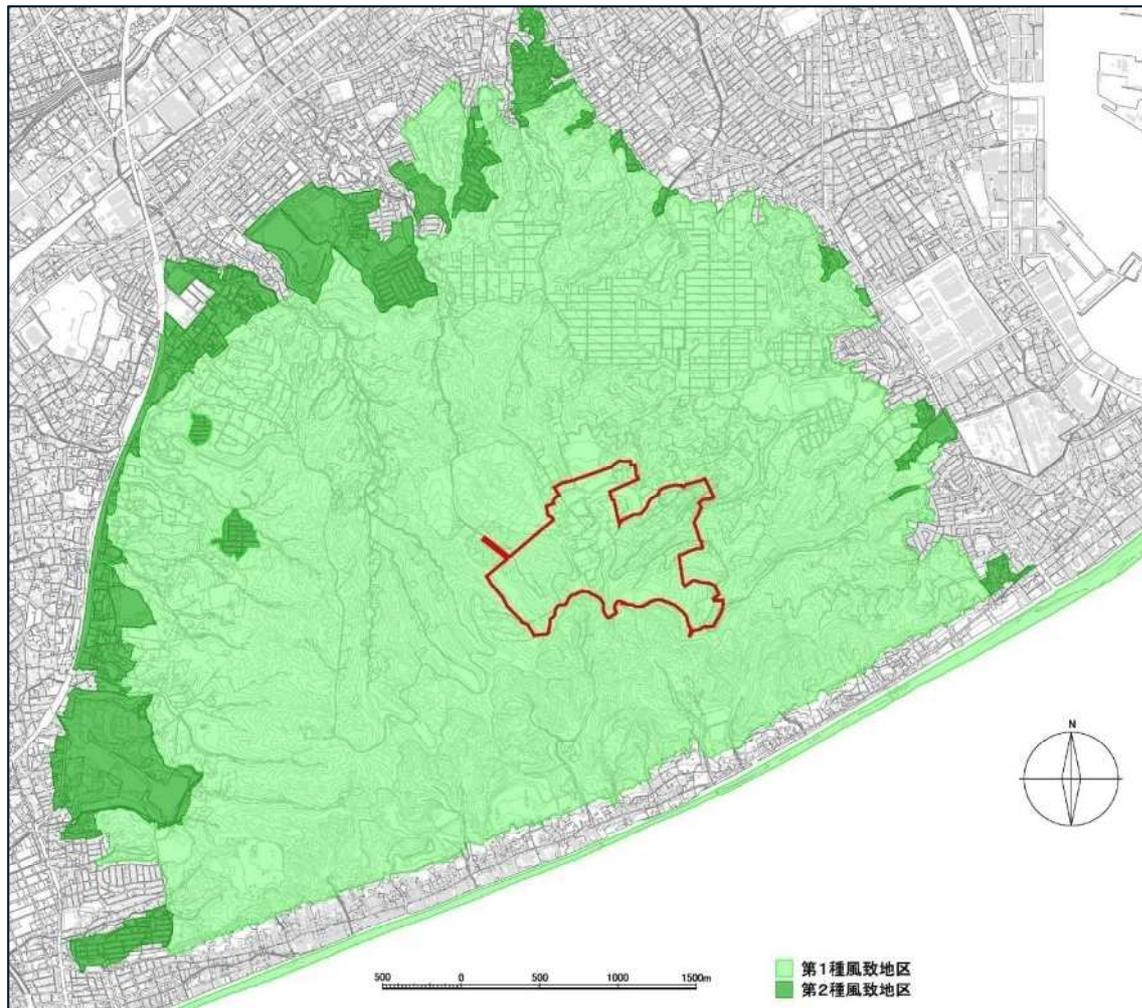


《凡例》	
<p><b>「国指定名勝日本平」(文化財保護法)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別地区 (A 地区) . . . . .  展望地点として中心となる区域</li> <li>・保全地区 (B 地区) . . . . .  展望地点の周囲に展開し、指定要件の価値を保全する地域</li> </ul>	<p><b>「都市計画決定区域」(都市計画法)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市計画決定区域 . . . . . </li> <li>日本平公園基本計画区域 . . . . . </li> </ul> <p><b>「有度山風致地区」、「市街化調整区域」(都市計画法)</b> . . . . . 図の全域が対象</p>
<p><b>「日本平・三保松原県立自然公園」(自然公園法)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1種特別地域 . . . . . </li> <li>・第2種特別地域 . . . . . </li> </ul>	<p><b>「日本平遺跡」(埋蔵文化財包蔵地)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本平遺跡 . . . . . </li> </ul>

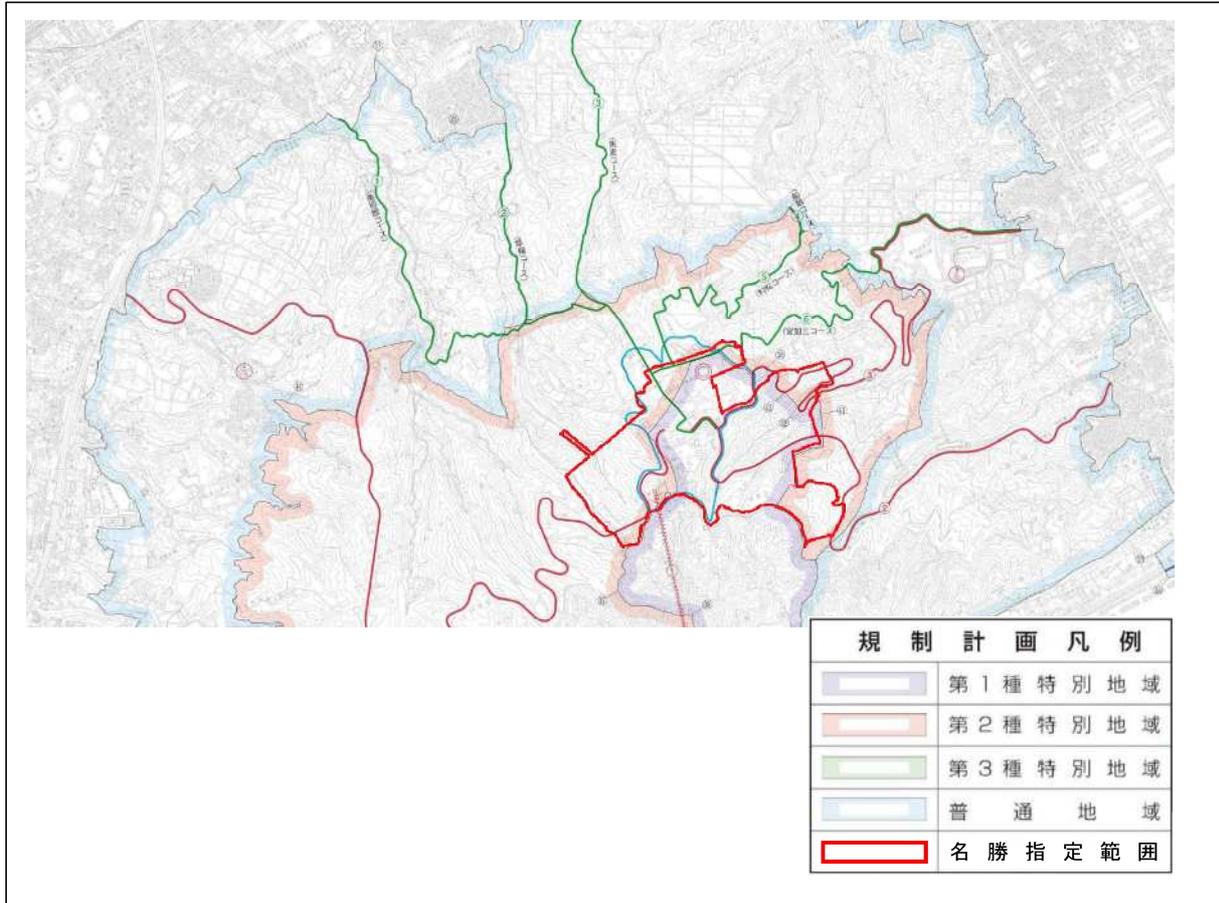
## 文化財保護法及び関係法令による措置

名称	規制種類	申請手続き	建築行為に係る規制の概要	許可権者
		建築・工作物・区画形質変更等		
国指定名勝日本平 (文化財保護法)	特別地区	現状変更許可申請 (場合により名勝委員会付議)	以下の現状変更を許容する。 ○許可条項 ・災害防止、人命の安全確保を目的としたもの、 ・展望を妨げる樹木伐採、修景のための植栽、名勝としての景観・環境を維持回復するもの。 ・都市公園及び自然公園の計画に基づくもの。	文化庁長官 (文化財第二課) or静岡市長 (歴史文化課)
	保全地区	現状変更許可申請 (場合により名勝委員会付議)	原則として現状変更は認めない(但し、公益上欠くことのできないもので、他の規制区域では、その意義を失うものを除く) ○許可条項 ・災害防止、人命の安全確保を目的としたもの。 ・名勝としての景観・環境を維持し回復するもので、保存・活用上必要なもの	文化庁長官 (文化財第二課) or静岡市長 (歴史文化課)
市街化調整区域 (都市計画法第34条)	市街化調整区域	開発行為許可申請	用途:観光資源その他の資源の有効利用上必要なものなど	静岡市長 (開発審査課)
日本平・三保松原県立自然公園 (県立自然公園条例)	第1種特別地域	県立自然公園特別地域内行為許可申請	用途:学術研究その他公益上必要なもの	静岡市長 (環境共生課)
	第2種特別地域	県立自然公園特別地域内行為許可申請	高さ10m以下、 建蔽率30%以内、 容積率50%以内等	静岡市長 (環境共生課)
都市計画公園(日本平公園) (都市計画法第53条)	都市計画公園(風致公園)	都市計画施設の区域内等における建築許可申請 (建築確認申請の対象のみ)	3階建て以下、 容易に移転除去できるもの、 主要構造物が木造・鉄骨造・コンクリート造等	静岡市長 (緑地政策課)
有度山風致地区 (静岡市風致地区条例)	第1種風致地区	風致地区内行為許可申請	高さ8m以下、 建蔽率20%以下、 意匠等が地域の風致維持に支障がなく調和がとれていることなど	静岡市長 (緑地政策課)

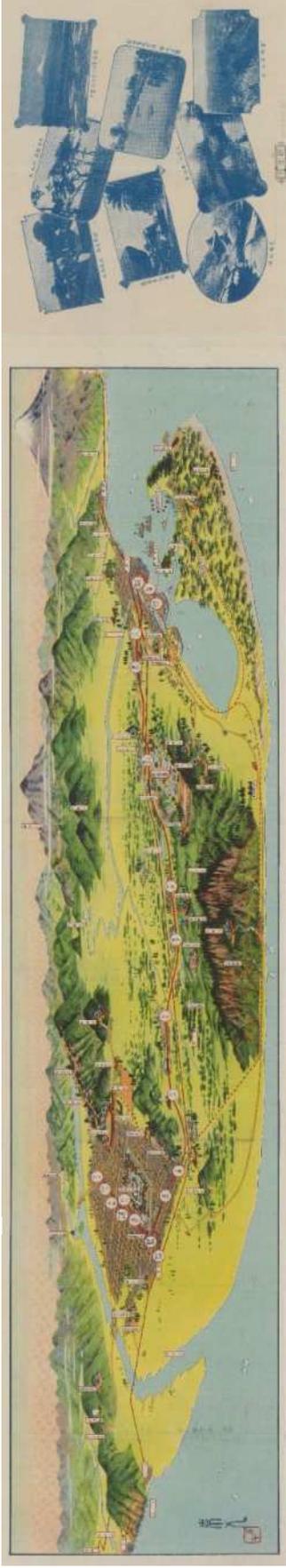
風致地区範囲図(日本平周辺)と名勝日本平範囲



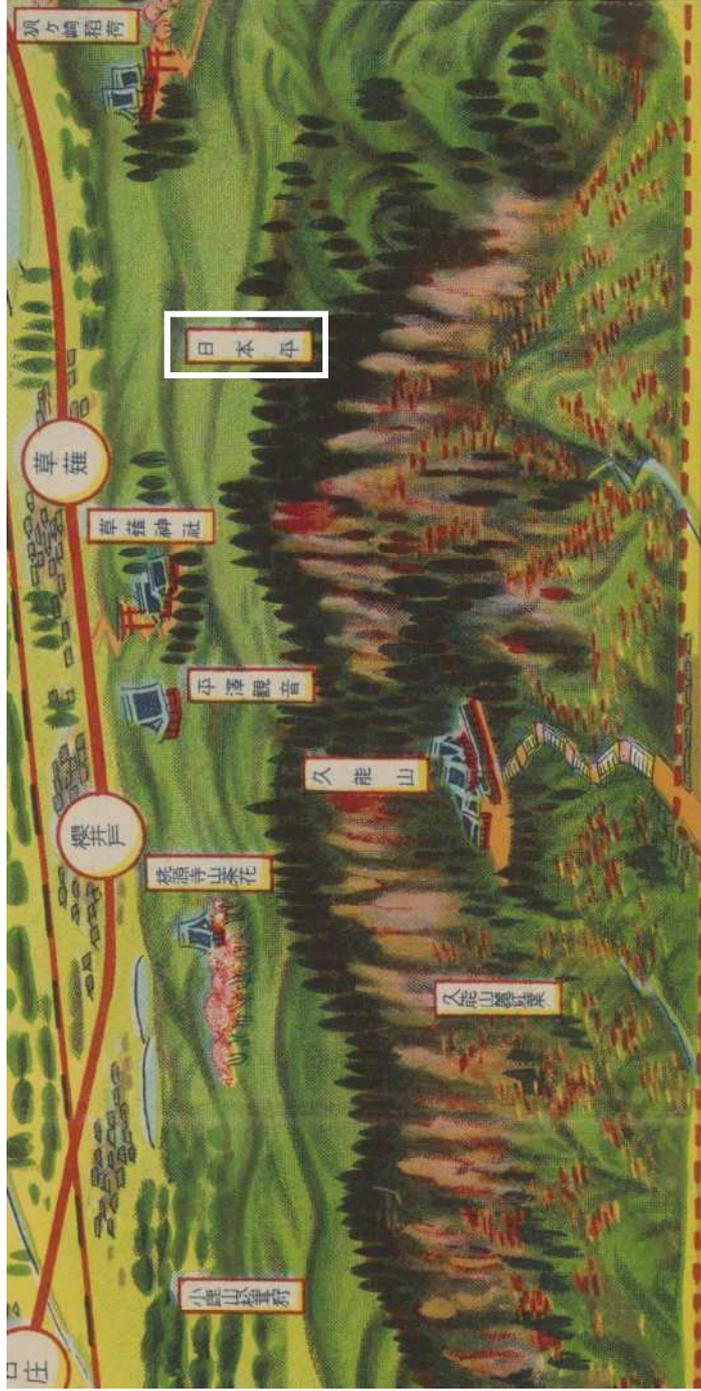
日本平・三保松原県立自然公園区域図（日本平周辺を抜粋）と名勝日本平範囲



# 鳥瞰図から見る日本平

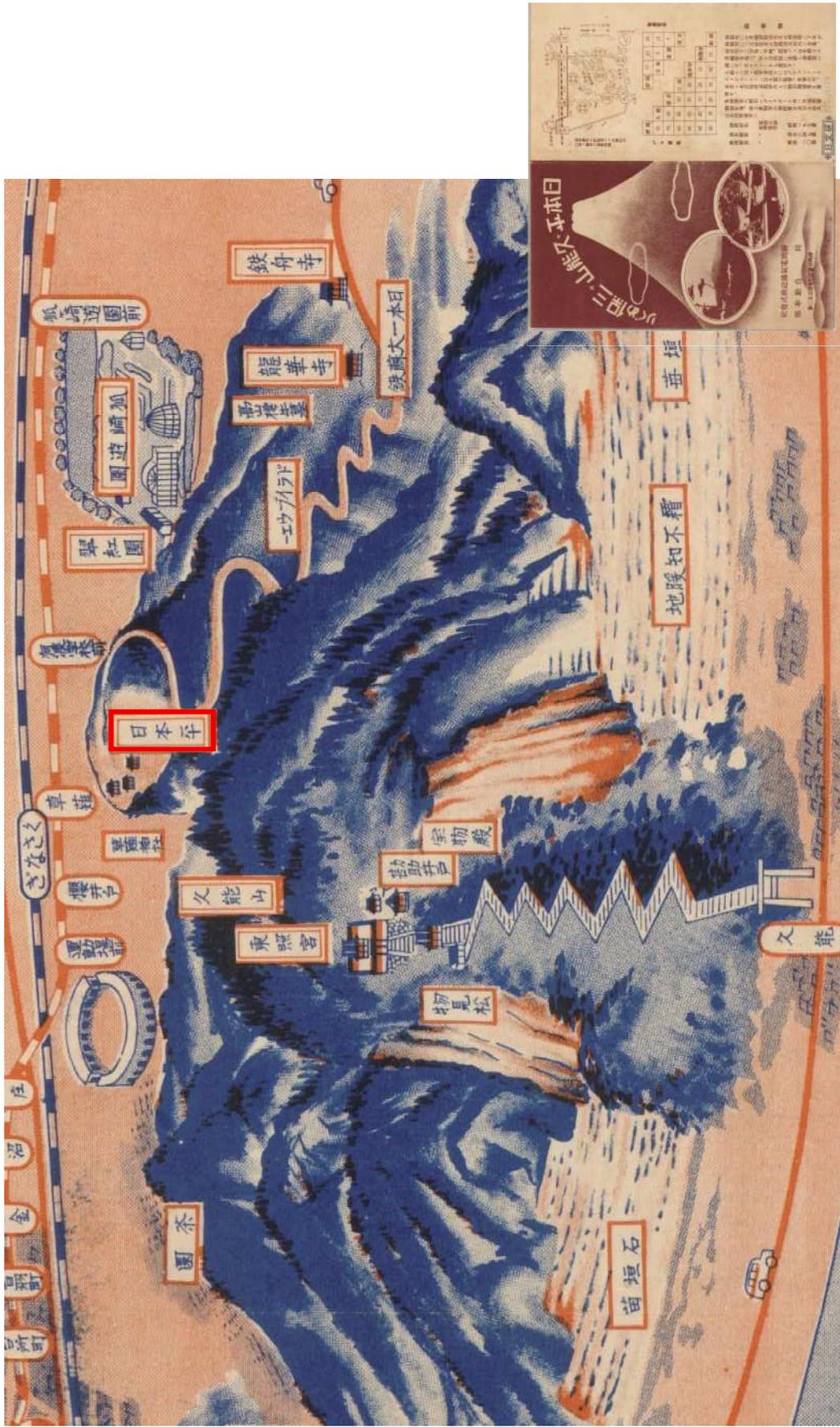


眺望景観構成要素、日本平の稜線美など昭和2年当時の様子がわかる資料。



金子常光「静岡清水遊覧案内」昭和2年（国際日本文化研究センター所蔵）全体図・拡大部分





パンフレット（発行年不明）。「日本平+久能山+三保めぐり」静岡電気鉄道[静岡電気鉄道株式会社]自動車部発行（国際日本文化研究センター所蔵）拡大部分・表紙



鍾秀台の碑

大和民族の国民性は、この霊山に由って代表せられるものと考えられ、感嘆これを久うした。『希望』の意は深長である。

戦後、日本平の名が上るにつれて年間数百万の観光客が雲集するが、或る日筆者は「吟望台」を訪れ、呆然たらざるを得なかった。御影石の碑は押し倒され、台石は荷物の置場となり、見るも無残な姿であった。広場周辺の土地は、園と清水市在住の元参院議員の長島銀蔵氏との間で久しく係争事件があったので、筆者は両者に蘇峰先生命名の碑の保存方について懇請したことがある。両者共何の異存なく、結局県当局が碑の基礎を固め、周囲にも石を積み、棚代りに花ツゲを植えて、面目を一新してくれた。

むしり、一、二本は抜き取られている始末だったからだ。そればかりか、中日の休みにドッと押しかけた大群集の捨てた空缶・ビン・紙クズ等々が碑の裾内から頂上一杯に散らばり、折からの強風に煽られて空中に舞い上って八方に振る。その上、下品な流行歌が拡声機で間断なしに流される。とても天地清寂の氣を味わうなどの環境ではなくなつた。乾坤清浄界を汚濁する言語同断の振舞、先覚者の悲願を裏切り、警告を無視する日本人の道德低下を、富士の山霊は、天上界の先生は如何に憤慨されているだろうかと思つたと、胸が痛かった。

広場の背後は屏風谷で、李白ではないが、正に屹立三千尺。この谷を隔てて綺羅豪華な権現造りを誇る東照宮のある奇峰久能山と相對し、駿河路にロマンな魅力添える石垣イチョブの香りが漂う廻りに「鍾秀台」の碑が立っている。

屏風谷に面して左手に聳ゆる有度山(三〇八米)三角点附近には「超然台」の碑がある。昔は燃料に枯れ枝を拾い、食料に木の実、草の根を求めものもあつたが、現在は殆んど皆無。嘗て「超然台」を目指し、雜草參差して人どころか、兎も通れない荒蕪に閉口したことがあつたが、一度頂きに立てば、霊山は固まり、遠くは南アルプス連峰に至るまで展望自在。御前崎、石廊崎に囲まれた駿河湾を眼下に、静岡、清水の市街、竜爪山、安齋、大井の両川、天城、箱根の山々は凡べて指顧の中だ。先生が「超然台」と命名したる故ある哉。



超然台の碑

大正の末年、蘇峰先生が日本平に登山される折は足痛があつたが、先生は「脚の一本位は失うても」と言つて進んで案内を乞うたそうだ。脚一本失われては大変で、これは勿論冗談ではあつたろうが、先生には矢張りこれ／＼を天下に訴え、わが民族の精神に活を入れようとする場合は一身を懸し、一命を捨てても言う心意氣があつた。冗談の裡にもその片鱗が窺われる。

近頃情報に依ると、日本平周辺も開発ブームで、大きな手が伸びているそうだ。眼前の暴利を貪つて、百

年、千年の大計を顧みないものが多い時勢だから、先生が半世紀前に登山して、天地清浄の氣を久しく民族の資産として胎せようと悲願した、この雄大明燭の妙境も、アツと言う間にブルドーザーの爪に引っかけられるかも知れぬ。そして地元先覚者が情熱を傾けて保護して来た記念の碑も、千仞の谷底に投げ込まれないとは限らぬ。そして、その谷も、このままでは心なき人々の捨てたゴミで埋められるだろう。これを放擲している当局者の氣持が分らぬ。ナシでも自由、勝手に振舞えるのが民主主義なら、そんな主義とは一刻も早く決別した方がよい。

秦の始皇帝は「焚書坑儒」の暴挙を行つて文化を破壊し、宋代までも笑いものになつたが、天然の文化である「天地の大文章」を壊すのは、人造の文化を破るよりも、その罪更に重しとせねばならぬ。若しこれを見逃している当局者があるならば、唯に後世の笑いものになるばかりか、いづれ天誅に見舞われる運命を覚悟せねばなるまい。(白石)



昭和40年代、日本平への来訪者が激増しオーバーツーリズムとなっている状況、蘇峰が選定した4つの眺望地点に建立した石碑の存在が国民の記憶から薄れている状況がわかる資料。本計画を契機に蘇峰選定の4地点についての普及啓発を目指す。

# 天地の大文章 日本平の四碑

蘇峰先生の碑を尋ねて

(30)

今は日本平と言えば、誰れ知らぬものもないが、大正年間には殆んど顧られていない。僅かに日本武尊が、国見をされたと言う伝説があった程度だ。有名な田山花袋が書いた『日本一周』(博文館・大正七年版)を見ると、この辺のことを「……その南に低く連つて丘陵が見えてゐる。それが久能山のあるところである……丘陵には、しかしさう大した特色もない」と、軽く片付けている。

ところが、戦後日本百景平原部の第一位に選ばれ、国指定の名勝に躍進するのだが、この日本平を大々的に新聞紙上で天下に紹介したのは、実に蘇峰先生を以て嚆矢とする。先生は大正十五年十月二十五日、初めて日本平に登ったが、その模様を次の如く書かれた。

……愈々日本平に向ふ……



望嶽台の碑

有志諸君は、予及び老妻の爲途中迄自転車後に附くる荷物車二個を用意せられた……身は宛も杜の光景裡にある……此辺亦茶畑が多い。山を括き、小石を積み、段々畑を作りてゐる。やがて車を捨てて石道を上り行く。上るに従ひ、茶畑は一変して野菜畑となり、菜や人蓼や白菜や大根の類がある。上りつむれば、乍ち駿河湾から伊豆半島を見る。而して大なる峽谷を隔て、削り成したる如き孤峰が久能山だ。

我等は一步を踏み外せば、數百尺の谷底に墜落す可き馬背の如き小笹茂れる小径を通り、漸く日本平に近づきつつ行く……この山上の平地が幾町歩あるや、詳かにせざるも、余程の広き面積がある。少くとも大観兵式位は出来さうにある。而して其の眺望に至りては、頗山陽が耶馬溪ではないが、実に天下第一と申して差支あるまいと思ふ……斯る天地の大文章に対しては、人間は唯だそれに随喜感悦すれば沢山である……予は斯る勝地を、此儘放棄しつづある静岡県人士の心持が分らぬと申したい。之を大遊園地とするの可否などを議論するよりも、せめて此の日本平に上る道を作り、道標にても立てたらば、如何かと思ふ。此文を読むの君子も、予に誦された頌りにて、必らず一度来觀せられよ……

そのころ、清水からの登山は草深い小径を辿るので、可成難波であったが、富士山の味めに絶好な八合目あたりを「望嶽台」と命名した。今はドライブウェイが通じ、碑のある周辺は碑名がそのまま地名になった。七夕節雄氏が大和神社を建立し、その境内に何応欽將軍が揮毫した「以德報怨」の四字を彫った碑を建てたので、中国の各界でも大いに「望嶽台」を認識するようになった。NHKと静岡放送のテレビ塔に隣して広場があって、「望嶽台」の碑がある。『時望』とは、恐らくその景観に感嘆措く能わざるもののあることを意味するのではなからうか。先生はその広場から、霊山の雲表に浮び、三保の松原が駿河湾に胸を伸して清水港を抱き、伊豆連山は呼べば応えん情景に、思わず藤田東湖の「秀でては不二の嶽と為り、嶽々として千秋に聳ゆ」を口ずさみ、わが



吟望台の碑

「天地の大文章」日本平の四碑 蘇峰先生の碑を尋ねて 『民友』第95号 提供：公益財団法人蘇峰会 昭

和48年3月1日発行

## 日本平関係 年表

\*下線は、名勝指定関係

年月	出来事
平安時代頃	久能山山頂に天台宗補陀洛山久能寺が建つ
室町時代頃	有度山縁辺に平澤寺、現鉄舟寺、千手寺といった久能寺に参詣道を守護した支院が建つ。日本平の西側に「久能道東」と「久能道西」の小字が見え、この道が久能寺参詣道か。
永禄 11 年 (1568)	武田信玄が久能山山頂に城を構える。久能寺を有度山東麓の現鉄舟寺に移す。
元和 2 年 (1616)	徳川家康が元和 2 年に亡くなり、翌元和 3 年 (1617) 久能山東照宮が建立される
嘉永から安政年間 (1848~1860)	『寿留嘉土産』に「日本平」の用字例がある
明治 12 年 (1879)	『駿河国有度山一圓之図』に「日本平」と記される
明治 13 年 (1880)	『駿河村誌』に「日本平」に字が見える
明治 30 年代頃	久能地域にて「石垣イチゴ」の栽培はじまる
(大正 3~7 年 (1914~1918) 第一次世界大戦)	
大正 11 年(1922)11 月 17 日	徳富蘇峰が清水区村松原の杉原山に登り「富士見台」と名付ける
(大正 12 年 (1923) 関東大震災)	
大正 15 年(1926) 4 月 3 日	国鉄草薙駅が開設される
	10 月 24 日 清水区村松原の「富士見台」に徳富蘇峰の詩碑を建立し除幕式を行う。
	10 月 25 日 徳富蘇峰、はじめて日本平へ登る
	11 月 4 日 徳富蘇峰、国民新聞 (11 月 4 日付け) にて「天下の絶景日本平」の記事を掲載して日本平を絶賛する
昭和初年 (1926)	この頃までに、草薙からの登山道 (歩道) が整備される
昭和 2 年 (1927)	「新日本八景と日本百選」の投票が東京日日新聞主催で行われた。有度村草薙青年団が「日本平保勝会」を設立し、この得票に向けて奔走する。7 月 6 日「日本百景」に入賞する
昭和 2 年	「ちゃっさり節」静岡鉄道が狐ヶ崎遊園開園を記念して、北原白秋に作詞依頼
昭和 4 年 (1929)	『日本風俗体系 東海地方』に「日本平」景勝地であると紹介される
(昭和 5~6 年昭和恐慌)	
昭和 6 年 (1931)	日本平山頂に遊覧者激増、茶屋が増え眺望を阻害するため、清水市は、史跡名勝天然記念物保法による取締まりを請願する

年月	出来事
昭和6年10月	「清水市保勝会」発足
昭和7年(1932)1月	史蹟名勝天然紀念物保存法第1条に基づく仮指定 名勝の部第11、所在 清水市村松・駒越、有度村字草薙・馬走
昭和8年(1933)	失業者対策として、日本平登山道路開鑿 旧都市計画法に基づく風致地区に指定
昭和9年(1934)	日本平登山道路開通(自動車道)(現在の旧道日本平線)沿道に、桜苗700本、梅苗100本植樹。
昭和10年(1935)2月	清水市が徳富蘇峰に委嘱した富士山展望地点4か所に石碑建立(望嶽台、吟望台、鐘秀台、超然台)
9月	東京日日新聞による清水港からバスで中腹まで上がり、日本平を徒歩で経て狐ヶ崎に下るハイキングコースが設定される。
昭和10年	超然台に「日本平航空灯台」設置、点火
昭和12年(1937)4月	「日本平公園」都市計画決定
(昭和12年日中戦争)	
(昭和14~20年 第二次世界大戦)	
昭和15年(1940)	ヒトラーユーゲント一行来日、日本平視察(静岡民友新聞昭和15年11月13日)
(昭和20年8月15日 太平洋戦争終戦)	
昭和25年(1950)	毎日新聞社による「日本観光地百選 平原の部」で日本平が第一位
昭和26年(1951)3月6日	「日本平県立(自然)公園」指定
昭和26年4月1日	日本平線路線バスの営業開始(清水経由)
昭和28年(1953)	静岡県による日本平山頂の土地の買い上げ、駐車場・公衆トイレ・芝生広場等の公園整備実施
昭和32年(1957)5月31日	「日本平ロープウェイ」(静岡鉄道株式会社)運行開始
昭和32年6月30日	(昭和7年の)仮指定失効【文化財保護法附則による】
昭和32年7月1日	静岡県による文化財保護法第70条第1項による仮指定「日本平久能山」指定基準 名勝の部3、6、11 所在 清水市村松・駒越・草薙・馬走、静岡市根古屋 (昭和34年7月19日に昭和32年仮指定失効予定)
昭和34年3月14日	清水市長から文化財保護委員長へ名勝指定への申請書提出
昭和34年6月17日	国の名勝指定 名勝の部11、10官報告示 ※久能山は史跡指定
昭和34年	「名勝日本平」の管理は、「名勝三保松原」の管理基準を準用(昭和58年まで継続)

年月	出来事
昭和 35 年 (1960) 3 月 20 日	国鉄準急「日本平号」(東京～静岡間)の運転開始 5 月 29 日までの日曜と祝日に運転
昭和 35 年 7 月	山頂に「日本平観光天文センター」ができる (2000 年閉鎖)
昭和 36 年 (1961) 11 月 1 日	静岡県自然公園条例に基づく「日本平県立自然公園」指定
昭和 36 年	コロムビアレコードより「君を呼ぶ日本平」、「日本平音頭」の歌と踊りがつくられる 日本平ゴルフ場開場
昭和 36 年 2 月 3 日	第 2 回静鉄観光まつりで「君を呼ぶ日本平」、「日本平音頭」を発表
昭和 37 年 (1962) 3 月 20 日	旧文化財保護法第 71 条の 2 第 1 項に基づき、 <u>旧清水市が管理団体に指定される。</u>
昭和 39 年 (1964)	日本平ホテル本館建設
昭和 39 年 3 月 1 日	静岡側「日本平パークウェイ」(有料道路)開通
昭和 39 年 3 月 13 日	日本平パークセンター (静岡鉄道株式会社運営) 開業
昭和 41 年 (1966)	「ちゃっきり節民謡碑」が日本平山頂に建立
昭和 44 年 (1969)	地元有志により徳富蘇峰名義で買い取られた杉原山の「富士見台」(清水区村松)が徳富蘇峰の孫徳富敬太郎氏より清水市に寄贈され公園となる
昭和 44 年 8 月 1 日	静岡市立日本平動物園が開園
昭和 47 年 (1972)	清水側「日本平パークウェイ」開通
昭和 47 年 5 月	日本平県立自然公園運営協議会発足
昭和 49 年 (1974) 7 月 7 日	七夕豪雨。日本平パークウェイ。久能山東照宮の石段被害により通行止めになる。日本平山頂～久能山下のハイキングコース通行不能となる
昭和 54 年 (1979)	日本観光地百選コンクール (週刊読売) 第一位
昭和 57 年 (1982) 3 月	昭和 58 年度より、文化庁から静岡県教育委員会へ権限移譲がされることとなったため、「名勝日本平」の保存管理計画の策定の必要が生じる。
昭和 58 年 (1983) 3 月 29 日	<u>「名勝日本平管理計画書」策定 (同年 4 月 1 日施行) (*「禁止地区」、「準禁止地区」、「緩和地区」の 3 規制地区と規制基準を設定)</u>
昭和 58 年 4 月 1 日	名勝日本平の一部について、文化庁から静岡県教育委員会へ権限移譲
昭和 60 年 (1985) 4 月	日本平桜マラソン初開催 (2020 年廃止)
昭和 61～63 年度 (1986～1988)	「有度山総合整備計画」基本構想・基本計画策定
昭和 62 年 (1987) 3 月 30 日	読売新聞社による「新日本観光地百選東海ブロック」で日本平が第一位となる
平成元年 (1989) 4 月 1 日	<u>「名勝日本平保存管理計画」改定 (許可基準の明確化)</u>

年月	出来事
平成4年(1992)	旧日本平公園整備基本構想・基本計画策定
平成12年(2000)4月1日	改正文化財保護法施行令施行*同令第5条第4項第1号により清水市へ一部権限移譲
平成15年(2003)1月	有度山土地活用及び日本平公園ゾーニングの見直し
平成15年4月1日	旧静岡市と旧清水市が合併し、新静岡市誕生
平成15年	県営駐車場建設
平成16年(2004)	日本平パークウェイ無料開放
平成17年(2005)	地上波デジタルタワー建設(電波塔統合へ)
平成17年3月	日本平山頂部等活用基本計画
平成20年(2008)3月	日本平公園基本計画策定
平成22年(2010)4月	「名勝日本平保存管理計画」改定(*規制地区と基準を変更。「禁止地区」を「特別地区」へ「準禁止地区と緩和地区」を「保全地区」へ)
平成22年12月	「久能山東照宮本殿・石の間・拝殿」が国宝指定
平成24年(2012)	日本平ホテル再築
平成25年(2013)	世界文化遺産「富士山—信仰の対象と源泉」登録(三保松原)
平成28年(2016)10月	日本平公園(名勝日本平)見直し基本計画
平成28年	日本夜景遺産 自然夜景遺産に認定
平成30年(2018)	文化財保護法改正
	県・市により日本平夢テラス展望施設、展望回廊建設 公園整備
令和3年(2021)	公園大芝生広場(部分)、園路、駐車場整備
	日本平ロープウェイ待合門前の恵みたいらぎリニューアル
令和6年(2024)	静岡市文化財保存活用地域計画策定

## 参考文献

- 『名勝日本平保存管理計画』静岡市 平成22年
- 『日本平の謎を追うー2000年度研究報告ー』静岡県立庵原高等学校郷土研究部 2000年
- 『清水市史資料 現代』清水市 昭和47年
- 『名山遊記』徳富猪一郎 民友社 国立国会図書館 昭和3年
- 『わが郷土清水』鈴木繁三 昭和37年
- 『民友』復刊第11号富士見台の望嶽詩碑 蘇峰会 昭和41年
- 『清水の地理と歴史』清水市教育委員会 昭和47年
- 『民友』第95号 日本平の四碑 蘇峰会 昭和48年
- 『徳富蘇峰の碑』蘇峰会 昭和58年
- 『不二見の百年』不二見地区まちづくり推進委員会 平成2年
- 『景観の構造』樋口忠彦 1991年
- 『南部フォッサマグナ地域南西部の地質構造ー静岡県清水市および庵原郡地域の地質』柴正博 地学団体研究会 地団研専報 1991年
- 『大気浄化植樹マニュアル2014年度改訂版 資料編 植栽のための植物特性一覧表』独立行政法人環境再生保全機構 予防事業部 平成7年
- 『人物が彩る清水』清水市教育委員会 平成14年
- 『文学碑に見る清水』清水市教育委員会 平成14年
- 『日本平ロープウェイ開業50周年記念誌』日本平索友会 平成19年
- 『平成19年度日本平公園基本計画報告書』静岡市 平成20年
- 『季刊清水』第44号 五味響子「日本一の観光地「日本平」いまむかし」 2011年
- 『季刊清水』第44号 杉山滋朗「自然を活かした有度山の農業地帯」 2011年
- 『有度山総合整備計画ー基本計画ーみどりの静岡文化の丘 日本平』有度山総合整備推進協議会 平成元年
- 『日本平公園(名勝日本平)見直し基本計画』静岡市 平成28年
- 『久能山誌』茨城雅子 第一部第一章 静岡市 平成28年
- 『古代中世久能寺とその芸能』渡辺浜男 平成31年
- 『静鉄グループ百年史 過去から未来へのメッセージ』静岡鉄道株式会社 令和2年
- 『静岡市観光基本計画』静岡市 令和6年
- 『静岡市文化財保存活用地域計画』静岡市 令和6年
- 『名勝三保松原保存活用計画』静岡市 令和7年
- 『自然観察ガイドブック10日本平』静岡県

# 名勝日本平保存活用計画

編集・発行 静岡市観光交流文化局

歴史文化課 文化財保護係

発行年月 令和8年（2026）3月

